

SOYOKAZE ZIKOBOU Vol.05

@NEWS 2020年8月号

ヒヤリハット 取組み実践紹介

2019年度に発足された当委員会では、各事業所から出されたヒヤリ・ハット事例について内容を共有し、その傾向・要因・対策案を出し、事故を未然に防止するよう取組んでいます。

日々発生するヒヤリハットを適切に抽出し、これを検証していくことで、隠された重大事故を未然に防ぐことにつながります。その取組みを通じて出た課題として、

「そもそもヒヤリハットが適切に報告書に上げられていない」ことがわかりました。

- 要因として考えられるものが、
- ・「ヒヤリハットというものがなんだかよくわかっていない」
 - ・「ヒヤリハットを報告に上げる上で基準が曖昧でわからない」
 - ・「ヒヤリハットの仕事の失敗を犯したイメージがあり、中々発信しづらい」
 - ・「ヒヤリハットは、事故にならなかつたのに報告しないといけないのか？」という事です。

よって、まずはこの課題解決に向けた取り組みから実行する必要があることがわかりました。

その取組み（一例）として、今年度生活支援課での実践内容を紹介します。

各事業所現場支援員の皆さんのヒントとなれば幸いです。

2種のマニュアル作成



①ヒヤリハットの理解

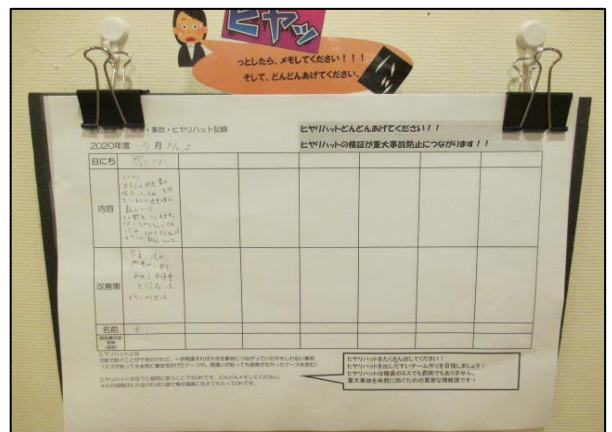
①ヒヤリハットの理解

「そもそもヒヤリハットとは？」という声から、ヒヤリハットの定義・目的・基準・取組みの仕方・報告書作成・事故発生時の対応等についてまとめました。

②事故防止活動の基本

- ・ 事故の評価基準設定方法
（評価基準の重要性が高いものから取組む）
- ・ 重大事故防止のための支援員のスタンス
- ・ 優先度設定のための基礎的知識・ポイント
- ・ 対策を講じるためのポイント

手書きのヒヤリハット表



生活支援リビング薬ボード下に設置

これまで「報告しづらい」「パソコンを立ち上げて所定の書式に入力するのが正直面倒」「報告書にあげるころには詳細を忘れてしまった」という声があったことから、その場ですぐにメモレベルで記載できる仕組みを導入しました。「質より量」をテーマにどんどんヒヤリハットを抽出し、当事業のリスクの傾向・対策を積極的にだしてもらってます。また、ヒヤリハット担当者を設定し、報告書への転載や集計等の管理をしています。

ヒヤリハットの重要性

内容	詳細
ヒヤリハットとは	寸前で防ぐことができたけれど、一步間違えれば大きな事故につながっていたかもしれない事例。重要なのはミスがあっても未然に事故を防げたケースや、間違いがあっても被害がなかったケースを含まれること。
検証することの目的	①重大事故発生を未然に防ぐ ②スタッフの安全面に関する支援技術の向上を目指し、利用者の安心や安全を確保できるようにする
必要な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット、事故報告を出しやすい環境作りとチーム風土の改善 →職員のミスや罰則ではない。重大事故を未然に防ぐための貴重な情報源 リスクマネジメントにおけるPDCA サイクルの視点 →計画～実行～評価～見直し 苦情解決への取り組み →サービスの質のための貴重な情報源として業務改善につなげていく サービスの標準化 →どの職員が実施しても同一のサービスが提供できるよう業務や作業の標準化を図る ヒヤリハットはスタッフのイメージ力が欠かせない →危険予知訓練を通じて事後防止のための「気づき」の力（＝イメージ力）を身につけていく



ヒヤリハット取組み 実践結果

ヒヤリハット報告数 昨年度と比較

	4月	5月	6月	7月
2019年度	6	2	4	9
	↓	↓	↓	↓
2020年度	25	49	28	25※

前ページ2点の取組みを通じて、昨年度と比較し、報告件数が格段に上がった。また、ヒヤリハット数（量）を増やせば、おのずと重大事故に発展しかねない改善するべき優先度の高い（質）報告が上がることに繋がることがわかった。この結果を活かし安全なサービス提供改善を実施していく。

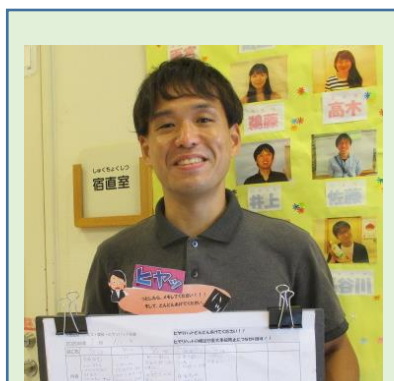
※7/21現在の報告数

抽出されたヒヤリハット（例）

- 荷物を持ち歩こうとしたが持ち手の紐が足にかかり、転びそうになっていた。
- コロナ対策で換気のために開けていたドアから利用者が外に出ようとしていた。
- バスポイントまで送っていく際に、車通りは無かったが信号が赤の横断歩道を渡ろうとした。
- 他利用者が退所時利用料金を内線で伝えている際に玄関から一階に降りてしまっていた。
- 衣服のまま勢いよく湯船に飛び込んだ。
- 服薬準備中に、水を入れていたコップを手渡すと床にコップごと叩きつけた。
- テレビを観たい利用者、テレビを消したい利用者があり、テレビを消されないように抵抗しようと、その利用者を突飛ばそうとした。
- 個室で過ごしていた利用者の所在確認で、居室に入るとエアコン（冷房）が効きすぎてしまっていた



福祉の現場 最前線 職員紹介



稲葉さん
趣味：マラソン
(2012年度入職)

皆さまお疲れさまです。生活支援課所属の稲葉です。入職9年目になります。仕事内容としては主にシヨートステイにおける利用者支援です。夜間の過ごしをいかに安心安全に実施できるかに、日々力を入れ臨んでいます。事業上、さまざまな年齢（一時ケア、3歳から、宿泊小学生から利用）や障害特性をもった方が利用されます。緊急利用をはじめ24時間365日の受入れ体制を構築しながら、安心安全なサービス提供の実現に多大なる難しさと責任感を感じております。無事に、来所から退所まで安全に過ごして、翌日の通所先や学校等に送り出すことができた時、やりがいと達成感を味わうことができますね。今年、社会福祉士資格を取得しました。より専門性をもった利用者支援の実施をしていきたいと思っております。日頃より皆さまからのご理解ご協力を頂き、ありがとうございます。今後とも共に当法人を盛り上げていきましょう！